

なんばひろば改造計画(なんば駅前周辺道路空間の再編)

大阪・ミナミの中心に、上質で居心地のよい公共空間を創造する

所在地	大阪府大阪市中央区、浪速区
主要部面積等	約 2,300 m ² (広場部分)
事業主体	大阪市
おもな用地	道路

【概要】

○なんば駅周辺の道路空間を、車中心の空間から人中心の空間へと再編し、地元組織等のエリアマネジメント活動により、世界をひきつける観光拠点として上質で居心地の良い空間の創出を図る。

【契機】

- 現状のなんば駅周辺は、タクシープールや植栽に多くの空間が割かれ、広場を挟む2本の車道が広場空間を分断しており、一体的な空間を確保できていない。また、観光客の増加に伴い、周辺道路の歩道において、歩行者通行量に比べて狭い歩行空間となっている。このように、車のスペースが大部分を占め、歩行者のための空間が不足している状態だったことから、2008年、地元メンバーによるなんば駅周辺道路の歩行者空間化にむけた自主検討が始まった。
- 2011年には、地元町会・商店街・周辺企業等25団体で構成される「なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会」が設立され、なんば駅前およびなんさん通りの歩行者空間化に向けた取組が進められた。
- 2015年、なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会から大阪市に検討組織への参画等について要請があった。これを受け、2015年12月に、官民合同で組織する「なんば駅前広場空間利用検討会」(地元・行政・経済界の検討体制)が始動した。

【経過】

- 2011年 「なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会(以下、「地元協議会」という)」を設立
- 2015年 地元協議会から大阪市に検討組織への参画等について要請
「なんば駅前広場空間利用検討会(以下、「検討会」という)」が始動
- 2016年 「なんば駅周辺道路空間再編社会実験実行委員会」(地元協議会、大阪商工会議所、大阪府、大阪市)による「なんば駅周辺道路空間再編社会実験」を実施
- 2017年 社会実験の結果を踏まえ、なんば駅前の広場化を官民が協働して実現するための指針となる「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」を検討会において策定
- 2018年 大阪市により「なんば駅前広場空間再編事業」として事業化するとともに、完成後の歩行者空間を民間でよりよく運営するための準備組織として「なんば広場マネジメント法人設立準備委員会」が設立
- 2021年 「なんば駅周辺道路空間再編事業社会実験」を実施

【現況】

○歩道拡幅による安全性向上と混雑緩和、歩行者専用空間拡大による憩いの場の創出と利活用を目指し、交通及び荷捌きの運用や安全性の改善、歩行者空間づくりの検討を進め、それらの検証のための社会実験の実施に向けて、関係機関と協議を進めている。

【位置図】



現況図

【事例の特徴】

○2016年11月の3日間、一時的にタクシー乗場の閉鎖、車道減車線と歩道拡幅、それら空間を利用した人の居場所づくり、体験型観光情報の発信等の社会実験を実施した。累計8万7千人が入場し、様々なプログラムを行ったが、実施後アンケートでは、約9割が歩行者空間化、ゆっくりと休憩でき憩える空間を支持した。



人中心の空間づくり



交通機能の再編



観光案内所の試行

出典：なんばひろば改造計画 HP

○将来像（イメージ）

まちの歴史やにぎわい感があり、大阪の都市格を感じる居心地の良い空間となる。この場所では、日常使いの市民はまちへの誇りを感じ、大阪の地に降り立った観光客は旅の期待感を高める。

○コンセプト

「大阪のおもてなし玄関口～世界をひきつける観光拠点づくり～」として、①人中心の空間に再編し、世界的繁華街ミナミの新たなシンボル空間を生み出す。②ミナミ・大阪・関西を回遊する拠点として、地域と連携し情報を届ける。③人のまちミナミの中心として、居心地よく安心感のある空間を創造する。

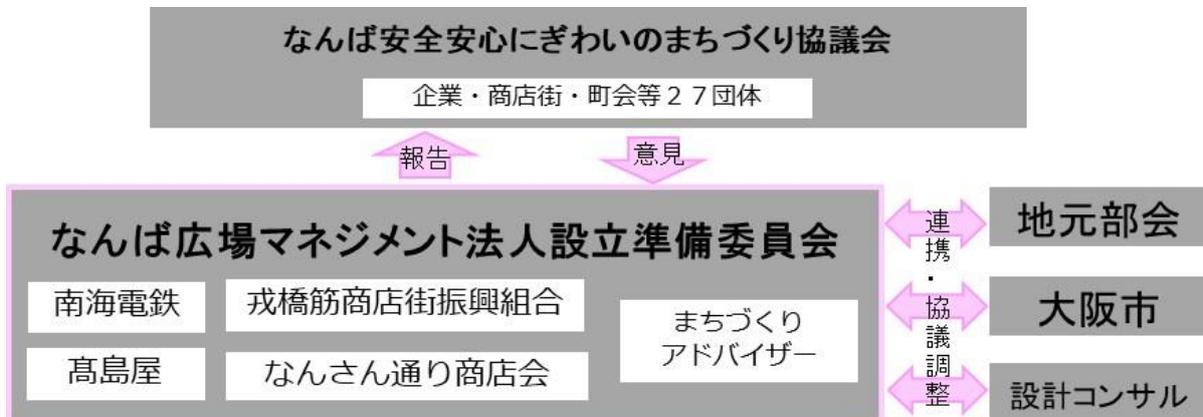


イメージ図

出典：「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」

○整備・利活用計画検討時の体制

なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会・なんば広場マネジメント法人設立準備委員会・まちづくりアドバイザー・大阪市が、駅前広場化の実現に向けた各種の検討事項を協働で議論する体制を構築している。なお、運用時の体制は現在検討中である。



【参考資料】

大阪市役所 HP、なんばひろば改造計画 HP、『なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画』2017年3月27日(なんば駅前広場空間利用検討会)

いずみがおか広場

泉北地域活性化のために泉ヶ丘駅前広場を全面リニューアル

所在地	大阪府堺市
主要部面積等	1,340 m ² (広場部分)
事業主体	南海電気鉄道株式会社
おもな用地	駅前広場

【位置図】

© OpenStreetMap contributors



【概要】

○泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョンの取組として駅前広場を全面改修し、「緑に包まれ、誰もが気軽に楽しみ憩える広場」をコンセプトに、『参加・観覧する』広場へリニューアル。市民の「やってみたい」が集まるマルシェ「つながる Days」や演奏会等のイベントが行われている。

【契機】

- 泉北ニュータウンは、1967年のまちびらきから50年以上が経過し、南海電鉄は、中期経営計画「深展133計画」において「泉北関連事業の強化」を基本方針の一つに掲げた。
- 泉北エリア全体の活性化に向けて、その中核エリアである泉ヶ丘駅前地区の①エリアのイメージアップ②エリアへの集客力の向上③エリアの回遊性向上のため、商業施設をリニューアルし、泉ヶ丘駅前のシンボルである広場の全面改修を行った。

【経過】

1967年	泉北ニュータウン整備
2010年	「泉北ニュータウン再生府市等連携協議会」設立
2011年3月	「泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョン」策定
12月	「泉ヶ丘ライブタウン会議」設立
2014年8月	南海電鉄が大阪府タウン管理財団からショッピングタウン泉ヶ丘(駅南)の譲渡を受け運営開始
2015年1月	「泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョン」改定
2月	南海電鉄グループが中期経営計画「深展133計画」策定
2016年4月	商業施設名称を「泉ヶ丘ひろば専門店街」に変更 いずみがおか広場をリニューアル
2017年11月	第1回「つながる Days」開催

【現況】

- 広場全体の利用、キッチンカー等の一部のみの利用があり、2020年度の活動日数は30事業142日間である。常に何かイベントが行われている広場を目指しており、5年かけてようやく理想に近づいてきた。
- 駅前全体の回遊促進面ではまだまだ不十分で、周辺事業者との連携は今後も強化が必要である。



平面図



整備前と整備後の噴水広場

【事例の特徴】

○広場では泉北ニュータウンに暮らす人たちが自ら企画するマルシェや音楽祭等のイベントを行い、隣接する泉ヶ丘センタービル内では地元の大学と連携した子育てセミナーやシニアの筋トレ教室等のイベントを開催している。また、泉ヶ丘ライブタウン会議が主催となり、地域愛の育成や駅前の回遊促進を目的にロックフェスやダンスフェス、ハロウィンイベントなど年 4～6 回開催している。



泉ヶ丘ライブタウン会議主催のハロウィン

ONPO 法人 SEIN

マルシェイベント「つながる Days」の運営を行っており、出展者の「やってみたい」を実現するため、企画のサポートから当日のテントの立て方、ブースの構え方・見せ方等のノウハウを伝え、360 度裏を作らない広場づくりをおこなっている。また、広場を使いこなせる人材を増やすために適宜、アンバサダー養成講座を実施している。アンバサダー講座受講者には広場利用料を半額とし、市民がイベント主催する際の金銭的ハードルを下げよう努めている。



出展者の輪



大学と農家の連携ブース



全景

○広場の所有・管理は南海電鉄が行っており、ハードとソフトを担うチームを同じ事業部に所属させることで方向性を統一している。協議会等は採用していない。

○泉ヶ丘ライブタウン会議とは

泉ヶ丘駅前事業者のエリアマネジメント組織。会員相互の意見・情報交換を行うとともに、泉ヶ丘駅前地域において「住み続けたいまち泉ヶ丘」の実現に向け、さまざまな取組を実施し来街者を増やし、地域の活性化をはかることを目的に設立された。会員は下記の通りである。

記

会員(順不同)

堺市立ビッグバン、国際障害者交流センタービッグ・アイ、ジョイパーク泉ヶ丘、株式会社セルビス、泉北エネルギーセンター(株式会社 OGCTS)泉北高速鉄道株式会社、株式会社高島屋泉北店、南海電気鉄道株式会社、株式会社パンジョ、株式会社コノミヤ、泉北ニュータウン再生府市等連携協議会、泉ヶ丘専門店会会員

【参考資料】

堺市役所 HP『泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョン』2015 年 『泉ヶ丘駅前地域活性化アクションプラン』2016 年(泉北ニュータウン再生府市等連携協議会)、泉ヶ丘ひろば専門店街 HP・Facebook、南海電気鉄道株式会社 HP

泉大津市ヘルシーパークー(仮称)小松公園整備事業ー

泉大津市民会館等跡地活用事業

所在地	大阪府泉大津市小松町
主要部面積等	35,200 m ²
事業主体	泉大津市都市政策部都市づくり政策課
おもな用地	都市公園(予定)

【位置図】

© OpenStreetMap contributors



【概要】

○老朽化した市民会館を2017年3月末で閉館し、その跡地および隣接する消防本部跡地、民間工場跡地の合計約4haに、(仮称)小松公園と民間による広場や屋内空間を整備する計画である。敷地の海側(西側)に公園を先行して整備し、2023年度に供用を始める。

【契機】

- 泉大津市は、健康を「身体」及び「認知機能」や「能力」、「技量」、「才能」など広く「アビリティ」と捉え、市民一人ひとりが「能力」、「技量」、「才能」を伸ばすとともに、泉大津市民としてまちへの愛着と誇りを持つシビックプライドの醸成を図り、都市ブランドとしての「アビリティタウン」の実現を目指している。計画対象地は、「心身を整える」をテーマにスポーツやイベント、市民活動を展開する「ヘルシーパーク」と、健康増進につながる多種多様な事業が実践できる「アビリティセンター」の設置を想定している。
- (仮称)小松公園整備事業は、泉大津駅西地区周辺の公園の必要性和、周辺価値向上を図るために行う。(仮称)小松公園では、「ヘルシーパーク」として様々なアクティビティをサポートするため多目的スペースやシャワールームなどの機能を備えた公園管理施設を整備する予定である。屋外の「ヘルシーパーク」と、隣接する屋内の「アビリティセンター」を整備し、2つの機能・施設の一体的な活用を促進し、互いの機能を補完できるように、屋内と屋外の連続性を重視した一体的な「公園」を目指す。

【経過】

2018年	民間事業者を対象にヒアリングを開始
2020年	公募型プロポーザル実施、委託事業者決定 市民ワークショップ「設計者と困む、(仮称)小松公園アイデアテーブル」開催 民間事業者を対象にしたサウンディングを実施(2021年8月現在、継続中)
2021年~22年度	公園整備工事

【現況】

○2021年3月に公園のデザインが決定した。2020年9月から2021年3月にかけて計4回実施された市民ワークショップの意見やアイデアが取り入れられている。



(仮称)小松公園全体イメージ図



施設仮配置図

【事例の特徴】

○事業コンセプト

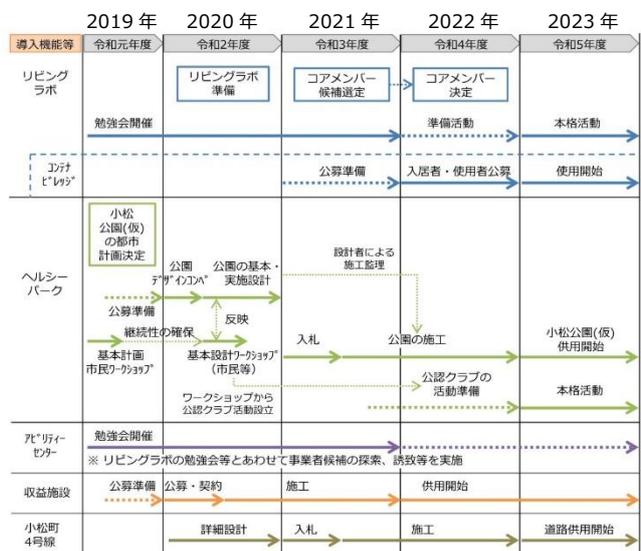
『アクティビティに溢れた「心と身体を整える」空間の形成と市民共創による泉大津発の新たな価値の創出』市内の公園・スポーツ施設のハブ・ゲートウェイとして、計画対象地における取組の波及や一体的に活用したアクティビティを実施するとともに、計画対象地の利活用方法をモデルとして、市内の他公園やスポーツ施設運営に活かす。
計画対象地内の公園や諸施設を効果的に活用し、計画対象地を拠点としたアクティビティを展開することも想定し、公民連携の実現を目指す。



周辺エリアとの連携イメージ

○スケジュール

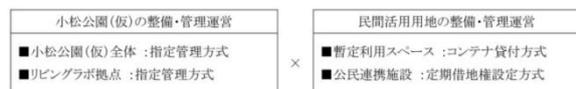
計画対象地全体を一度に整備するのではなく、中長期的に市民ニーズが高いことが想定される都市公園の整備・活用をスタートとして、段階的に計画対象地全体の施設・機能を拡充していくことを想定している。
2018 年度から公民連携のヒアリングやセミナー、市民ワークショップ、研究会などを実施し、市民や関連事業者からの意見、方向性の取りまとめがおこなわれた。
2020 年度に行われた基本設計・実施設計業務委託の公募型プロポーザルにて、「株式会社緑景×株式会社 E-DESIGN×ジオグラフィック・デザイン・ラボ設計共同体」を委託候補者に特定した。
2023 年度の供用開始から本格活動するスケジュールを設定している。



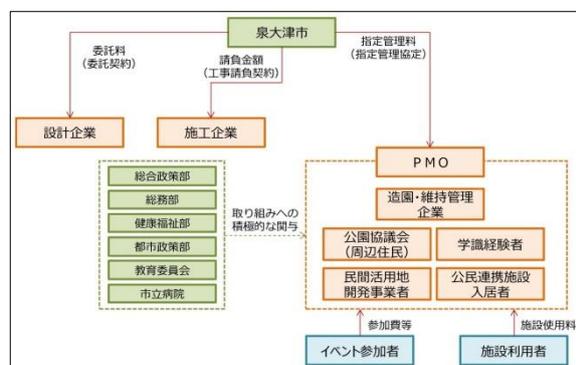
小松公園(仮)整備開始までの事業スケジュール予定

○想定される事業スキーム(整備・管理について)

想定される事業スキームの設定にあたっては、実現性の観点から、右記の事業方式等を検討している。
(仮称)小松公園及び基本的な公園施設については、市が自らの負担により整備する。(仮称)小松公園全体の管理運営は、公園の効果的な活用と維持管理のため、PMO による指定管理を想定する。(仮称)小松公園の管理運営に係る費用は、指定管理料として市が負担しつつ、その他、PMO の運営やイベント等の事業実施に必要な費用については、PMO が公園利用者やイベント参加者等から得る収入から負担する。



前提とする事業方式



小松公園(仮)整備・管理運営のスキーム(指定管理方式)

【参考資料】

泉大津市役所 HP「アビリティタウン構想(泉大津市民会館等跡地活用事業)」 「(仮称)小松公園の整備紹介」 『市民会館等跡地活用基本計画』2020 年 3 月 『泉大津市市民会館等跡地活用について』

都心・三宮再整備 葺合南 54 号線

神戸・三宮の都心からウォーターフロントをつなぐ道路を歩行者中心にリデザイン

所在地	兵庫県神戸市中央区
主要部 面積等	総延長約 750 メートル
事業主体	神戸市建設局道路工務課
おもな用地	道路

【位置図】

© OpenStreetMap contributors



【概要】

○道路を貴重な公共空間ととらえ、元々2車線と停車帯で構成されていた当該道路の車道を、1車線だけ残し、新たに生み出した道路空間を人優先に再配分することで、安全で快適な歩行者環境を創出する。

【契機】

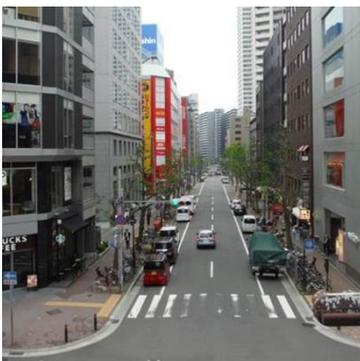
- 神戸市では「都心・三宮の再整備」として、三宮駅周辺エリアについて、重点的に公共施設の建替えや公共空間のリニューアル事業を推進している。
- 事業の1つとして、三宮駅直近の「えき〜まち空間」からウォーターフロントへと南北に貫く道路・葺合南 54 号線(約 750 メートル)において、道路を貴重な公共空間ととらえ、利用状況に見合った整備を行う「道のリデザイン」に取り組んだ。

【経過】

- 2000 年～ 三ノ宮南まちづくり協議会が発足
- 2012 年 協議会と神戸市とで葺合南 54 号線の再整備について検討会実施
- 2015 年 三宮周辺地区の『再整備基本構想』策定
- 2016 年 第 1 期工事に着手、KIITO による「+クリエイティブゼミ vol.22」実施
- 2018 年 整備後のアンケート調査実施
- 2020 年 葺合南 54 号線道路改良工事 (その 4) 完成
- 2021 年 葺合南 54 号線道路改良工事 (その 5) 完成

【現況】

- 拡幅して生じた歩道空間にベンチや花壇を設置しており、多くの人により利用され、新たな賑わいや憩いの場が生まれている



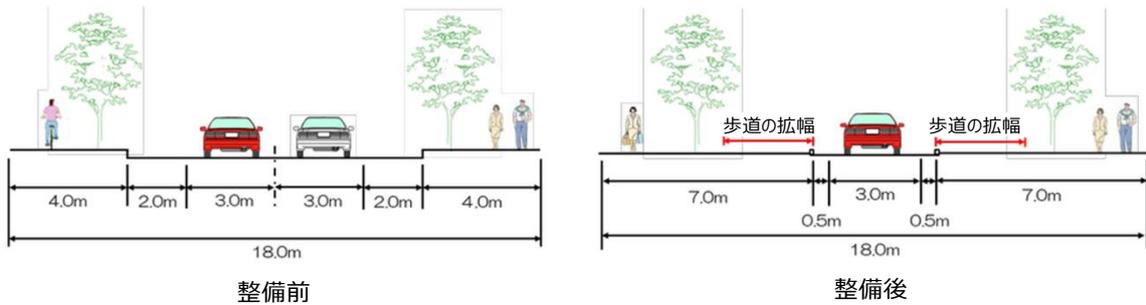
整備前



整備後

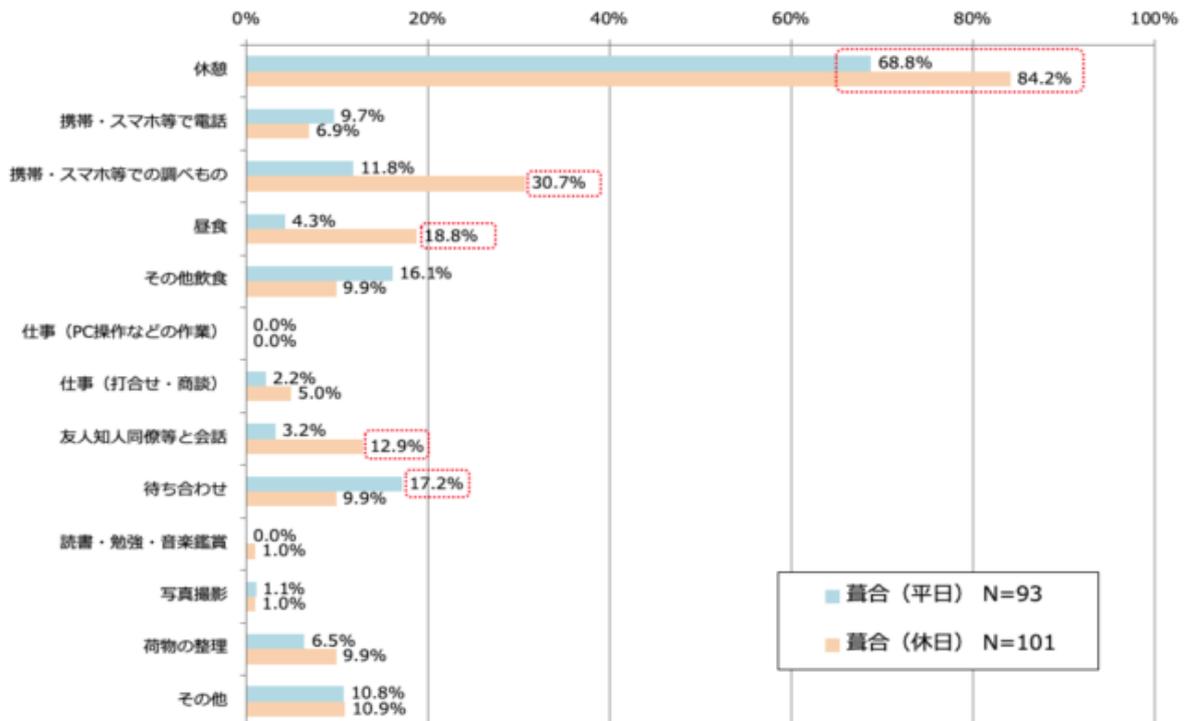
【事例の特徴】

○元々は、南向き 2 車線と停車帯で構成されていた当該道路の車道を 1 車線だけ残した上で蛇行化させて、車の走行速度を抑制させた。新たに生み出した道路空間を人優先に再配分することで、両側 7.0m 幅の歩道を確保してベンチ等の施設を設置、車中心から人中心の道路に生まれ変わった。



○整備後のアンケート調査「利用方法」

平日 2 日間、休日 1 日の合計 3 日間かけて、午前 9 時～午後 9 時の 12 時間間に利用者へのアンケート調査を行った。狙い通り「休憩」が多く、さらに休日の「スマホでの調べ物」「昼食」「友人との会話」、平日の「待ち合わせ」といった回答が多く、にぎわいや回遊の促進を期待させた。



整備後のアンケート調査「利用方法」の表

【参考資料】

神戸市役所 HP、『三宮周辺地区の再整備基本構想』2015 年(神戸市)、都心・三宮再整備 KOBE VISION HP・Fac ebook、KIITO HP「+クリエイティブゼミ レポート」『道路の未来を考える』2017 年 3 月(神戸市、デザイン・クリエイティブセンター神戸)

姫路駅北駅前広場(姫路駅北にぎわい交流広場)の再整備 姫路駅から世界遺産・姫路城に至る都心部のにぎわいづくりの中核

所在地	兵庫県姫路市
主要部面積等	約 1.6 ヘクタール
事業主体	姫路市
おもな用地	駅前広場

【位置図】



【概要】

○姫路駅から世界遺産・姫路城に至る都心部の基盤整備やにぎわいづくりの取組とし、「城を望み、時を感じ人が交流するおもてなし広場」という基本コンセプトの下、国内最大級の駅前広場を整備する。

【契機】

○南北の交通の円滑化と南北市街地の一体化を目指して、1973 年に国鉄高架基本構想が発表され、1989 年に山陽本線等連続立体交差事業の事業認可を取得し、姫路駅周辺土地区画整理事業と合わせて整備が進められてきた。

○「城を望み、時を感じ人が交流するおもてなし広場」という基本コンセプトの下、JR 姫路駅北に全体面積約 1.6ha の駅前広場を整備した。

【経過】

- 2007 年 都市計画変更素案イメージ図公表
近隣商業者から疑問の声が浮上。独自のシンポジウム開催、代替案提出
- 2008 年 「姫路駅北駅前広場整備推進会議」が発足
- 2009 年 推進会議と平行して市民フォーラム開催
- 2010 年 市商連や NPO による WS、関係機関のヒアリング、一般市民への説明会などの活動
基本設計の取りまとめ 社会実験(使い手の声の収集、担い手育成)
- 2011 年 駅ビル解体に着手 姫路駅前広場活用連絡会の設立
- 2012 年 旧駅ビルの解体工事を待って駅前広場整備工事に着手
姫路駅前広場活用協議会
- 2013 年 社会実験「チャレンジ駅前おもてなし」開始
キャッスルガーデン竣工、キャッスルビュー竣工
- 2014 年 姫路城グランドオープン、姫路駅北駅前広場竣工、芝生広場オープン
- 2015 年 「姫路駅北にぎわい交流広場条例」の施行

【現況】

○大手前通りのトランジットモール導入により、路線バスとタクシー以外の車両を通行禁止とし、バスとタクシーの待機を高架下で行うことで駅前での待機数を減らすことができ、駅前で人が滞留できる空間の面積を拡大した。



整備前



整備後

【事例の特徴】

○姫路市が示した素案が、交通機能を重視した駅前広場であったため、市民や議会等からの反発があり、市民や有識者との対話を繰り返して検討を進める形を取り入れた。結果として、歩行者重視の空間づくりが実現した。

○利用方法等は市の条例で定めており、使用許可申請が必要である。有料だが低価格で利用できる。



芝生広場



キャッスルガーデン

○イベント

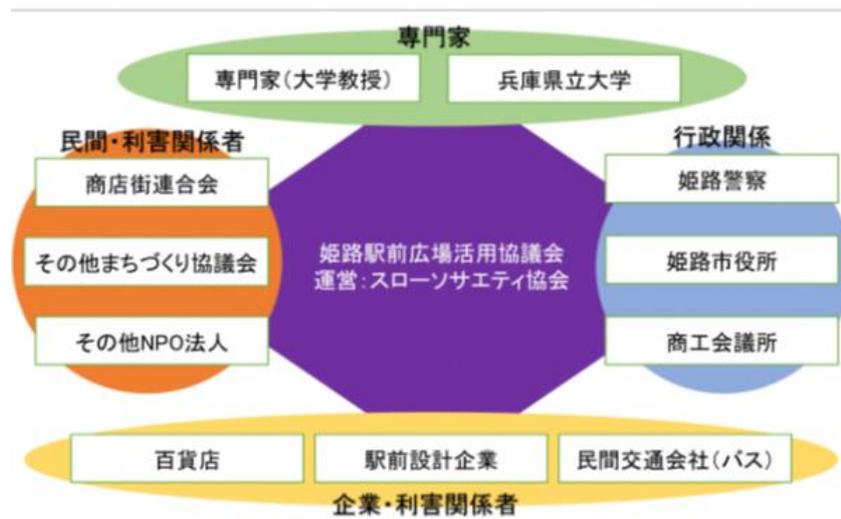
2013 年から公共空間活用社会実験を行い、キャッスルガーデンや地下通路を活用し本格実施に向けたルールづくりが行われた。それを踏まえ 2015 年に「姫路駅北にぎわい交流広場条例」を施行し、広場の本格的な活用が始まった。開催イベント数は、年間 400 件程度と多くの利用があり、音楽イベントを中心にフェスティバルの開催等もある。



大道芸フェスティバル

○姫路駅前広場活用協議会

広場の利活用についての協議や社会実験を実施するため発足した。



姫路駅前広場活用協議会 構成図

【参考資料】

姫路市役所 HP「姫路駅北駅前広場計画」「姫路駅北駅前広場の整備について」、『UII まち・つくる通信 vol.10』2014年 1 月 8 日(兵頭康)、都市とガバナンス Vol.28『協働による都市空間のデザイン』2017 年(東田隆宏)、「都市と交通通巻 109 号」NPO 法人スローンサエティ米谷啓和

花畑広場

多様なイベント利用による中心市街地の活性化

所在地	熊本市中央区
主要部面積等	広場：約8,900㎡、公園：約6,000㎡ (全体約14,900㎡)
事業主体	熊本市都市建設局都市政策部市街地整備課
おもな用地	公共施設跡地、旧道路敷等

【位置図】



【概要】

○商業核の1つであるバスターミナルを含む再開発施設と一体となって、賑わいを維持、創出していくとともに、日常時は憩い、くつろげる空間として、いわゆる「まちなか広場」としての役割を担っている。

【契機】

○熊本市は、中心市街地の更なる活性化と回遊性の向上等に向けて、桜町・花畑周辺地区のまちづくりを進めている。当該地区の整備方針やデザインガイドライン等について定めた「桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本計画」に基づき、桜町バスターミナルを含む再開発事業と併せて旧・産業文化会館の跡地に4年間の期間限定(2015年6月～2019年12月)で(仮称)花畑広場を開設した(隣接する歩行者空間：シンボルプロムナードを合わせて約8,900㎡)。

○2019年9月に開業した桜町再開発施設に続き、「桜町・花畑地区オープンスペース※整備事業」に伴う本格整備工事に2020年1月から着手し、2021年秋頃の整備完了を目指している。

※シンボルプロムナード、(仮称)花畑広場、辛島公園、花畑公園の総称

【経過】

2012年	「桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本構想」策定 「桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント検討委員会」を設置
2014年	「桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本計画」策定
2015年	旧・産業文化会館の解体完了。跡地を期間限定の(仮称)花畑広場として開設 (仮称)花畑広場に隣接する市道(延長約220m)を廃止し、シンボルプロムナードに変更
2019年	オープンスペース整備計画に基づき、(仮称)花畑広場の暫定供用終了
2020年	オープンスペース整備に着手 第17回桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント検討委員会にてオープンスペースの愛称を「花畑広場」に決定
2021年	秋頃整備完了予定

【現況】

○2020年1月から花畑広場整備に着手し、2021年秋に完成予定である。

○2021年7月30日より、花畑広場の管理運営を行う指定管理者の募集を開始した。



全体図

【事例の特徴】

- (仮称)花畑広場を中心市街地の賑わい創出や将来のオープンスペースの整備にあたっての参考とするために、2015年から暫定的に供用し、多様な利用を行ってもらった利用者からの意見を聴取した。
- 2019年9月以降は、シンボルプロムナードの貸し出しも行われ、(仮称)花畑広場と一体となった国際スポーツイベントを含めた多様なイベントの開催により、更なるにぎわいが創出され、中心市街地の活性化を図った。



(仮称)花畑広場



利活用事例 1



利活用事例 2

○花畑広場の将来像

多様な催事等への対応が可能となるだけでなく、日常的にも人が集い、憩える空間を確保することで、にぎわいの創出と熊本城と中心商店街の回遊性を向上させる役割を果たす。また、災害時には一時避難場所等にも使える広場空間を目指す。



花畑広場 イメージ図

【参考資料】

熊本市役所 HP、熊本市観光ガイド(仮称)花畑広場 HP